

# 1－社会学

## 研究・教育活動の概要と特色

専門分野・社会学は、文学部発足当初から、全国的な社会学研究および教育の拠点として長い伝統をもっている。理論研究とくにテキストを詳細に読み解く学説研究に定評がある。この伝統をふまえつつも、近年は現代社会の実証的な分析に力点をおき、理論研究と、おもに質的なデータに依拠する実証研究との統合をめざしている。本研究科を中心とするCOEの一翼を担っていることもあって、吉原教授およびその指導院生は東南アジア、インドネシアの地域住民組織に焦点をあてて、長谷川教授は米国やオランダ・ドイツの研究者と環境問題や市民活動に関して、現地フィールドワークを行うなど、国際共同研究も重視している。吉原教授の新都市社会学に関する研究や正村教授の情報やコミュニケーションに関する研究、長谷川教授の環境社会学、社会運動に関する研究、永井准教授のハーバマスおよび地域福祉に関する研究、下夷准教授の家族や福祉に関する研究は、既存の研究動向に関する詳細な文献研究とそれぞれのフィールドでの実証研究をふまえた、独創性に富んだ高水準の理論的な研究として国内外の高い評価を得ている。

教育においては、とくに外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。課程博士の学位取得者の割合もきわめて高い。

研究室員は、行動科学・心理学・哲学などの隣接専門諸分野と連携して、国際的および全国的な研究交流をはかりながら自由闊達に切磋琢磨している。

## I 組織

### 1 教員数（2008年 4月現在）

教授：3

准教授：2

講師：0

助教：0

教授：長谷川公一、正村俊之、吉原直樹、

准教授：永井彰、下夷美幸

## 2 在學生数 (2008年 4月現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
51	0	6	15	0	0

## 3 修了生・卒業生数 (2004～2007年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	13	4	3	4
05	18	2	2(1)	2
06	14	2	3	3
07	14	4	2	2
計	59	12	10(1)	11

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2004～2008年度)

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	4	0	4
05	2	6	8
06	3	0	3
07	2	0	2
計	11	6	17

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

山尾貴則、2004年度、『G.H.ミード「社会心理学」の研究——「科学の方法」を手がかりに』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、助教授・永井彰、助教授・木村邦博

山本智宏、2004年度、『ロバート・ベラー研究——近代と伝統とが交錯する地点から』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、教授・鈴木岩弓、助教授・永井彰

高橋泉、2004年度、『地域社会と「近代化」——「山村調査」「海村調査」の追跡調査研究対象地を中心とした比較研究』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・高城和義、教授・正村俊之、  
教授・嶋陸奥彦、助教授・永井彰

武田篤志、2004 年度、『都市空間と場所イメージの変容に関する社会学的研究  
——「森の都・仙台」を事例に』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・高城和義、教授・正村俊之、  
教授・原純輔、助教授・永井彰

齊藤綾美、2005 年度、『インドネシアの地域保健活動の成立と展開——地域社  
会から見た「開発の時代」』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・高城和義、教授・正村俊之、  
教授・長谷川公一、助教授・永井彰、助教授・木村邦博

青木聡子、2005 年度、『ドイツにおける原子力施設反対運動の展開過程——環  
境指向型社会へのイニシアティブ』

審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・吉原直樹、教授・高城和義、  
教授・正村俊之、教授・佐藤嘉倫、助教授・永井彰

高橋英博、2005 年度、『グローバル経済と東北の工業社会』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・高城和義、教授・海野道郎

永野由紀子、2005 年度、『現代農村における「家」と女性——庄内地方に見る  
歴史の連続と断絶』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・吉原直樹、教授・大藤修、助  
教授・永井彰

松井克浩、2005 年度、『ヴェーバー『経済と社会』（旧稿）の研究——誤解・  
意味・重層性』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・吉原直樹、教授・海野道郎、  
教授・正村俊之、助教授・永井彰

大久保武、2005 年度、『日系人の労働市場とエスニシティ——地方工業都市に  
就労する日系ブラジル人』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・高城和義、教授・海野道郎、  
教授・正村俊之、教授・長谷川公一、助教授・永井彰

徳川直人、2005 年度、『G.H.ミードの社会理論——再帰的な市民実践に向け  
て』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・正村俊之、教授・海野道郎、  
教授・吉原直樹、教授・長谷川公一、助教授・永井彰

野原光、2005年度、『現代産業労働における分業と標準化の諸形態』

審査委員：教授・高城和義（主査）、教授・吉原直樹、教授・海野道郎  
田代志門、2006年度、『臨床医学研究の社会的コントロール——研究と診療の  
境界をめぐる社会学的考察』

審査委員：教授・正村俊之（主査）、教授・吉原直樹、教授・長谷川公一、  
教授・清水哲郎、助教授・永井彰

伊藤嘉高、2006年度、『グローバルな世界における〈場所〉と創発の社会学——  
グローバルな空間編成とアジアの地域住民組織』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、  
教授・野家啓一、助教授・永井彰

菱山宏輔、2006年度、『バリ島における地域セキュリティ・システムの社会学  
的研究——東アジアの「都市コミュニティ」の再定式化に向けて』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、  
教授・沼崎一郎、助教授・永井彰

高橋雅也、2007年度、『文化遺産をめぐる社会的実践と保存の思想——歴史へ  
の再帰性とローカリティ』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、  
教授・嶋陸奥彦、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

前山総一郎、2007年度、『アメリカの直接立法と市民オルタナティブ』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、  
教授・佐藤勝則、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	7	6	1	3	17
05	12	2	4	2	20
06	8	8	1	2	19
07	2	2	1	0	5
08	3	0	3	4	10
計	32	18	10	11	71

## 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	13	0	4	17
05	1	11	4	5	21
06	0	14	0	4	18
07	1	6	3	1	11
08	2	11	0	0	13
計	4	55	7	14	80

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

- 上田耕介 「ガバナンス論への懐疑」, 『社会学年報』, 37号, 2008.
- 高橋雅也・菱山宏輔 「都市祭礼の存続と担い手の解釈世界～大崎八幡宮例  
大祭を事例として」, 『社会学研究』75号, 2004.
- 高橋雅也 「近代三大築港ネットワークの展開——技術遺産の保存活動を事  
例に」, 『東北文化研究室紀要』49集, 2008.
- 本間照雄 「ユニットケアにおける職員配置を規定する要因」, 『社会学年  
報』34号, 2005.
- 伊藤嘉高 「地域共同性の現代的位相と地域住民組織」, 『ヘスティアとクリ  
オ』, 1号, 2005.
- 伊藤嘉高 「過剰都市化に伴う町内共同性の変容——仙台市域町内会の制度  
論的転回に向けて」, 『日本都市学会年報』39号, 2006.
- 伊藤嘉高 「制度的〈地域〉表象の限界——仙台市柳生地区の場合」, 『地域  
社会学会年報』18号, ハーベスト社, 2006.
- 田代志門 「地域社会におけるホスピス運動の多元的形成と展開——岡山の  
事例にみる3つの『理念』の競合」, 『保健医療社会学論集』, 16巻1号,  
2005.
- 菱山宏輔 「『同化』による自立と連帯——ロバート・E・パークのみた世紀  
転換期アメリカ黒人」, 『社会学史研究』, 27号, 2005.
- 青木聡子 「ローカル抗議運動における運動フレームと集合的アイデンティ  
ティの変容過程——ドイツ・ヴァッカーズドルフ再処理施設建設反対運  
動の事例から」, 『環境社会学研究』, 2005.
- 安達智史 「信頼論への四つのアプローチ」, 『社会学年報』34号, 2005.

- 安達智史 「イギリスの人種関係政策をめぐる論争とその盲点——ポスト多文化主義における社会的結束と文化的多様性について」, 『フォーラム現代社会学』, 7号, 2008年.
- 西山宝恵 「後期パーソンズの宗教社会学の視座」, 『社会学研究』77号, 2005.
- 古平浩 「整備新幹線の建設における合意過程」, 『日本地域政策研究』5号, 2006.
- 土田久美子 「コミュニティ支援活動からリドレス運動へ——草の根活動組織 NCRR の成立」, 『社会学研究』80号, 2006.
- 田畑洋一 「ドイツ最低生活保障給付——その体系と給付内容」, 『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』25巻1号, 2006.
- 田畑洋一 「ドイツ求職者基礎保障給付Ⅰ」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』25巻2号, 2006.
- 田畑洋一 「ドイツ求職者基礎保障給付Ⅱ」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』26巻1号, 2007.
- 木村雅史 「E・ゴフマンの相互行為分析の展開——『フレーム分析』における「括弧入れ」概念の意義」, 『社会学研究』81号, 2007.
- 泉啓 「初期ハーバーマスのゲーレン批判——「近代の二元的把握」をめぐって」, 『社会学研究』, 84号, 2008.
- 笹島秀晃 「情報化と乖離する世界」, 吉原直樹編著『開かれた都市空間』法政大学出版社, 2008.
- 板倉有紀 「町会と防災活動」, 東北年社会学研究会編『地方都市におけるゆらぐ町内会とその動態——2008年青森市町内会・自治会調査結果報告書』, 2008.
- 大友康博 「脱場所化と再場所化」, 吉原直樹編著『創られた都市空間——空間から場所へ』法政大学出版社, 2008.

## (2) 口頭発表

- 上田耕介 「政治的多元主義と公共善」, 第55回東北社会学学会大会, 2008年7月20日.
- 本間照雄 「痴呆症状の安定緩和をもたらす環境力」, 日本認知症ケア学会第5回大会, 2004年9月19日.
- 田代志門 「『死と死にゆくこと』をめぐる社会運動の連帯構築の条件——岡

- 山と広島におけるホスピス運動の比較分析」日本社会学会第 77 回大会,  
2004 年 11 月 20 日.
- 高橋雅也 「民俗遺産の保存と伝承母体の流動性——秋田県旧鉾山地域の二  
祭礼から」, 東北社会学会大会第 54 回大会, 2007 年 7 月 22 日.
- 安達智史 「近代社会と信頼——ネゴシエータブルな過程としての信頼」, 日  
本社会学会第 77 回大会, 2004 年 11 月 20 日.
- Adachi, Satoshi “The Form of Korean Dreams: for adaptation to the world”,  
Cultural Typhoon 2008 in Sendai, June 28, 2008.
- 青木聡子 「抗議運動における参加動機の構造——高レベル放射性廃棄物を  
めぐる闘争から」, 第環境社会学会 31 回セミナー自由報告, 2005 年 6 月  
19 日.
- 齊藤綾美 「メガシティ・ジャカルタ郊外地区における地域住民活動——ポ  
スヤンドゥ活動を中心にして——」, 日本都市学会第 52 回大会, 2005 年  
10 月 15 日.
- 伊藤嘉高 「町内会の組織的構成と機能にみる現代地域社会の『共同の契  
機』」, 日本社会学会 78 回大会, 2005 年 10 月 22 日.
- 菱山宏輔 「分権化のなかのツーリズム産業と地域社会の変容——バリ島地  
場産業のフィールドワークから」, 日本社会学会第 78 回, 2005 年 10 月 22  
日.
- 西山宝恵 「パーソンズのデュルケム論」, 日本社会学会第 78 回大会, 2005  
年 10 月 22 日.
- 中津川勇志 「『子どもが育つ地域社会』における NPO の役割——仙台市を  
事例として」, 東北社会学会第 53 回大会, 2006 年 7 月 30 日.
- 中津川勇志 「仙台市のフリースクールの可能性」, 東北都市学会第 8 回大会,  
2006 年 11 月 19 日
- 古平浩 「地方鉄道の存続運動にみるローカル・ガバナンスの機能」, 日本地  
域政策学会第 5 回全国研究大会, 2006 年 7 月.
- 古平浩 「公共交通とまちづくりを考える」, 信州上田夏季大学, 2006 年 9 月.
- 古平浩 「地域と協働で支えるマイレール」, 全国鉄道まちづくり会議, 2006  
年 11 月.
- 古平浩 「整備新幹線の建設をめぐる合意過程」, 地域社会学会第 33 回大会,  
2007 年 5 月.

- 古平浩 「経営システムにみるガバナンスの含意」, 東北社会学会大会, 2007年7月22日.
- 古平浩 「整備新幹線建設の合意過程にみるローカルガバナンスの視座」, 日本地域政策学会第6回全国研究大会, 2007年7月.
- 布田剛 「環境NPOと行政による協働の展開過程」, 東北社会学会第53回大会, 2006年7月30日.
- 木村雅史 「状況の定義とフレーム概念——E.ゴフマン『フレーム分析』の検討を通して」, 日本社会学会第79回大会, 2006年10月28日.
- 木村雅史 「ゴフマンの「状況の定義」論の再構成」, 日本社会学会大会, 2008年11月23日.
- 泉啓 「『過ぎ去ろうとしない過去』への取り組み——H・コール政権時代の歴史博物館、慰霊碑計画をめぐる論争について」, Cultural Typhoon 2008 in Sendai, 2008年6月28日.
- 土田久美子 「交錯する『強制収容の記憶』——日系アメリカ人リドレス運動と1981年公聴会」, 日本社会学会79回大会, 2006年10月29日.
- Tsuchida, Kumiko "Retelling the Past: Collective Memory in the Japanese American Redress Movement", the Annual Meeting of American Sociological Association, August 3, 2008.
- 笹島秀晃 「空間概念の整理——D・ハーヴェイの空間分類」, 東北社会学会第54回大会, 2007年7月22日.
- 笹島秀晃 「近代的空間と身体——ルフェーブルとフーコーの比較検討」, Cultural Typhoon 2008 in Sendai, 2008年6月28日. 板倉有紀 「エスノスケープとミリュー——ローカリティの諸相」, 東北社会学会大会, 2008年7月19日.
- 戸邊俊哉 「インターネット空間における媒介の論理——なぜマスメディア批判が高まるのか」, 東北社会学会第54回大会, 2007年7月22日.
- 上野佑 「社会と空間をめぐる議論への批判的実在論の応用可能性」, 東北社会学会大会, 2008年7月19日.

### 3 大学院生・学部生の受賞状況

- 本間照雄 日本痴呆ケア学会 2004年石崎賞(日本痴呆ケア学会), 2004年9月

渡辺美波 平成 18 年度東北大学総長賞（卒業論文『まちづくりとローカル  
ガヴァナンスの可能性——地下鉄東西線をめぐって』）、2007 年 3 月

#### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2004 年度 PD 採用 1 名、DC 採用 1 名

2005 年度 DC 採用 1 名

2006 年度 PD 採用 1 名

2007 年度 DC 採用 2 名、PD 採用 2 名

2008 年度 DC 採用 1 名

#### 5 留学・留学生受け入れ

##### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

04 年度 学部 計 1 名 カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ合衆  
国）大学院 計 1 名 インドネシア大学（インドネシア共和国）

05 年度 学部 計 1 名 ルンド大学（スウェーデン王国）大学院 計 2 名  
カリフォルニア大学サンタクルーズ校（アメリカ合衆国）、パジャジャ  
ラン大学（インドネシア共和国）

06 年度 学部 計 1 名 カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ合  
衆国）、大学院 計 1 名 フランクフルト大学（ドイツ連邦共和国）

##### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	0	0
05	1	2	3
06	1	0	1
07	0	0	0
08	1	0	1
計	3	2	5

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	2	0	2
05	1	2	3
06	0	2	2
07	0	1	1
08	0	1	1
計	3	6	9

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

計 7 名

04 年度	帯谷博明	奈良女子大学文学部	講師
04 年度 (D 修了)	柴田邦臣	大妻女子大学社会情報学部	社会生活情報学専攻 専任講師
05 年度 (D 修了)	菅原真枝	東北学院大学教養学部	地域構想学科 助教授
05 年度 (D 修了)	上田耕介	東北大学大学院文学研究科	助手
05 年度 (D 修了)	武田篤志	鹿児島国際大学社会福祉学部	講師
07 年度 (D 修了)	青木聡子	名古屋大学大学院環境学研究科	講師
08 年度 (D 終了)	高橋雅也	福島工業高等専門学校	助教

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

計 8 名 報道機関、教員

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『社会学年報』 年刊

『社会学研究』半年刊

『2004年度社会調査実習 鶯沢町における生活実態調査報告書——地域福祉を考えるために』2005年3月.

『2005年度社会学実習調査報告書 ライフヒストリーと地域社会』 2006年3月.

『2006年度社会調査実習 A班報告書 フリースクールの現在、そして未来——仙台を事例にして』2007年3月.

『2006年度社会調査実習 B班報告書 防犯都市域社会——住民防犯活動へのまなざし』2007年3月.

『2007年度社会調査実習 C班報告書 女性のライフサイクルと多様な「キャリア」形成』2007年3月.

#### 1.1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004年度 東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会開催（10月30日）

2005年度 東北社会学研究会事務局

東北社会学会事務局

東北社会学研究会大会開催（6月11日）

公共哲学京都フォーラム in 東北大学会議「社会運動と公共世界—公共哲学と公共社会学の接点を求めて」（2006年3月16, 17, 18日）.

2006年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（9月9日）

2007年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（10月6日）

2008年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2008年5月17日）

日本社会学会大会（2008年11月23-24日）

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

- 2004 年度 社会学特別講演 (2004 年 11 月 6 日)
- 2005 年度 社会学特別講演 (2006 年 2 月 18 日)
- 2006 年度 社会学特別講演 (2006 年 11 月 25 日)
- 2007 年度 社会学特別講演 (2008 年 2 月 2 日)
- 2008 年度 社会学特別講演 (2008 年 10 月 12 日)

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

行動科学研究室などとともに本専修分野は、吉原教授・長谷川教授が事業推進担当者として、正村教授が研究協力者として、本研究科を中心とするCOEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」の一翼を担っており、多数の大学院生がCOE大学院生、COEフェローとして、同プログラムを支えてきた。幸い同COEプログラムは、2005年の中間評価で、A評価を得ている。2003年度にこのCOEプログラムがスタートして以降、とくに行動科学・心理学・文化人類学・宗教学・哲学・教育社会学などの隣接専門諸分野との連携を強めている。COEプログラム以外でも、教員や院生の研究関心に応じて、建築学・地理学・環境学・医学・薬学・情報学など、総合大学としての強みをいかして、文学研究科内にとどまらない全学的な研究交流を活発に行っている。本専修分野の教員はいずれもそれぞれの専門分野で全国学会・全国的な研究組織のリーダー的存在であり、各種の審査委員・評価委員などを務めている。大学院生も全国学会をつうじた交流はもちろんのこと、薬害エイズ問題について全国的な調査研究のネットワークに参加するなど、研究テーマに応じて、主体的に全国の研究者と研究交流を行っている。

またCOEプログラムの開始と前後して、吉原教授およびその指導院生が東南アジア、インドネシアの地域住民組織に焦点をあてて、長谷川教授およびその指導院生が米国やオランダ・ドイツの研究者と環境問題や市民活動に関して、現地でフィールドワークを行うなど、国際的な共同研究や海外での学術調査もさかんに行っており、英語での著作の刊行や英語での研究報告も積極的に行っている。正村教授の著書は、日本社会学の名著シリーズの一冊として中国語訳が刊行されている。教員・大学院生による国際的なネットワークづくりも活発である。学部生・大学院生も積極的に海外に留学している。留学経験などをもとに、国連職員などの国際公務員をめざす院生や卒業生も増えている。このように、日本の社会学界の積年の懸案である国際化・国際発信という点では、日本の社会学研究室の中でトップ水準にあると

いえる。文献研究においても、永井准教授のハーバマス研究に代表されるような、本研究室のすぐれた伝統でもある厳密的なテキストクリティークに依拠して内在的な理解をめざす方法に加えて、2005年3月末に定年で退職した高城和義教授の指導のもとで、未刊行文献を積極的に渉猟し、研究者の全体像をその生涯にわたって描き出そうという野心的な研究も展開されている。理論研究という面では、正村教授も、独自の情報概念を基にして現代のグローバル社会を解明する研究を行っている。さらに、高城和義教授の後任として2007年度に着任された下夷准教授は、日本の家族とその歴史を幅広い視点から捉え直す実証的研究を行っており、下夷准教授の着任によって社会学研究室の体制は一層充実した。

本研究室はおもに東北地方を対象とする農村調査でも従来多くの成果をあげてきたが、吉原教授が東北都市学会を組織し、中心となって『東北都市事典』を編纂したほか、永井准教授も高齢者ケアに焦点をあて、東北地方や中部地方、沖縄県などをフィールドとして地域福祉に関する研究を行っている。長谷川教授は青森県六ヶ所村のむつ小川原開発・核燃料サイクル施設問題の研究を続けるとともに、北海道・東北地方の市民出資による「市民風車」プロジェクトの国際比較研究を行っている。1999年に発生したJCO事故に関する地域住民の生活と健康への影響調査も継続している。本研究室の教員は専門分野に関連する政府・地方公共団体関係機関等の委員等を数多く務めるほか、特定非営利法人の役員などとしても地域社会に貢献している。

教育においては、とくに英語・ドイツ語の外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。社会学実習は、とくに聴取などの質的調査に重点をおいているが、調査の企画から実査、報告書の刊行まで受講生自身の主体性を重視している。社会学実習の調査報告書は、教員・院生の指導・助言のもとで受講生自身が執筆し、ほぼ毎年刊行している。

課程博士の学位取得者は通算で22人、この5年間では11人にのぼっている。とくに小松丈晃が2000年度に提出した学位論文は『リスク論のルーマン』（勁草書房）として2003年7月に刊行され、帯谷博明が2002年度に提出した学位論文『河川政策の変遷と環境運動の展開—対立から協働・再生への展望』も『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生—対立と協働のダイナミズム』（昭和堂）として2004年10月に刊行され、本郷正武が2003年度に提出した学位論文『「良心的支持者」概念の理論的展開—HIV/AIDSをめぐる集合行為のフレーミング分析』も『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』（ミネルヴァ書房）として2007年2月28日に刊行された。このよ

うに本研究室の課程博士論文は質の面でも全国的に高い評価を得ており、学位取得者のほとんどは、公募で大学などの研究職についている。青木聡子が2006年10月1日付けで名古屋大学の講師として採用されたほか、奈良女子大学のような有力大学、大妻女子大学や駒澤大学、立正大学などのような首都圏の私立大学、東北学院大学などで公募でポストを得ている。大学院生の出身大学は、一橋大学・大阪大学・筑波大学・広島大学・金沢大学・早稲田大学・中央大学・法政大学・立命館大学など全国にわたっている。近年は、法科大学院の新設などにもともなって、本専修分野の学部から本専修分野の大学院にすすむ「内部進学者」が減っており、内部進学者の確保が大きな課題となっている。仙台にあるという立地条件にも規定され、本専修分野の研究および大学院教育に関する専門家レベルでの評価はきわめて高いが、その割には大学院受験者が増えないという悩みを抱えている。

課程博士の学位取得者が着実に増えており、その質も全国的にみて高い水準にあるということは、本専修分野出身の中堅の研究者にもよい刺激を与えており、論文博士の学位をもとめて、長年の研究成果をまとめ、本研究室に学位論文を提出する者も増えている。永野由紀子『現代農村における「家」と女性』（刀水書房, 2005年）のように、学会賞を受賞した作品もある。

東北社会学研究会の事務局は本専攻分野の研究室にある。ともに全国学会である東北社会学会・東北社会学研究会の運営を長年にわたって実質的に支えてきたのは、本専攻分野の教員・助手・大学院生であるといつて過言ではない。近年は、『社会学研究』が半年刊になるなど、学術雑誌の発行も順調にすすんでいる。

本専攻分野は、卒業生の主な就職先、卒論・修論・博論の表題一覧、所属院生の研究テーマや大学院志望者へのアドバイスを含み、独自のウェブサイトをもっており、内容の充実度は高い。吉原・正村・長谷川教授も研究活動などを紹介するウェブサイトを設置・運営しており、研究内容などの発信につとめている。

### Ⅲ 教員の研究活動

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

高城和義 「高齢者役割をどう規定するか——パーソンズの提案を中心として」、窪田暁子・高城和義編『福祉の人間学』、劉草書房、2004.

高城和義 「パーソンズ社会理論の思想としての可能性——パーソンズのマルクス、ウェーバー理解を手がかりとして」、富永健一・徳安彰編『パー

ソنز・ルネッサンスへの招待——タルコット・パーソンズ生誕百年を  
記念して——』、劉草書房、2004.

吉原直樹 「グローバル化と瞬間的時間の構制——情報都市論の構築に向け  
て」、慶應義塾大学法学研究会『法学研究』第77巻1号, pp.377-400, 2004.

吉原直樹 「都市化社会の進展」、中俣均編『国土空間と地域社会』（シリー  
ズ人文地理学9）、朝倉書店, pp.81-109. 2004.

吉原直樹 「地域通貨における時間と空間——アーバンネットの活動に寄せ  
て」、東北都市学会『仙台都市研究』3, pp.29-39, 2004年3月.

吉原直樹 「アジア・メガシティにおける地方制度の改革と地域住民組織生  
活の動向——DKI ジャカルタのクルラハン委員会を事例として」、『日本  
都市社会学会年報』37, pp.119-126, 2004年.

\* R. D. Dwianto 他と共同執筆.

吉原直樹 「近代日本の社会的編成と地域社会のグライヒシャルトゥングー  
——時間と空間の均質化の歴史的位相」、『社会学年報』特別号（東北社会  
学会50周年記念誌）、pp.57-80, 2004.

吉原直樹 「バンジャールの組織的構成と機能——アンケート結果第一次報  
告」、『東北大学文学研究科研究年報』54, pp.145-184, 2005.

\*伊藤嘉高他と共同執筆.

吉原直樹 「都市の階層分化」、植田和弘・神野直彦ほか編『都市の個性と市  
民生活』（岩波講座 都市の再生を考える3）岩波書店, 2005.

Naoki YOSHIHARA “Urban Control and Lightening the Environmental Load,”  
*Working papaer series*, No.3, East Asia Study Group Research Institute of  
Atma jaya Catholic University, August 2005,

吉原直樹 「都市の低未利用地問題と国・自治体の対応」、『都市問題』第97  
巻第5号, pp.50-57, 2006.

吉原直樹 「ポストモダンとしての地域社会」、古城利明監修『グローバリゼ  
ーション／ポストモダンと地域社会』（地域社会学講座2）、東信堂, 2006.

吉原直樹 「Urban Banjar の一存在形態」、『ヘスティアとクリオ』3, pp.52-75,  
2006.

吉原直樹 「アジアメガシティの光と影」、『アジア遊学』90, 2006, pp.7-17, 2006.

吉原直樹 「ゆらぐバンジャール」、『東北大学文学研究科研究年報』第56号,  
pp.155-184, 2007.

- 吉原直樹 「戦時体制の崩壊と教職追放」, 東北大学百年史委員会『東北大学百年史』第1巻・通史1, 東北大学出版会, pp. 519-550, 2007.
- 吉原直樹 「戦間期仙台の余暇空間—— 一覚書——」, 東北都市学会『仙台都市研究』6, pp. 11-21, 2008.
- 吉原直樹 「ハーヴェイをどう読むか——覚書——」, 『情況』08年7月号, pp. 103-114, 2008.
- 吉原直樹 「ローカル・ガバナンスと『開かれた都市空間』」, 東北社会学会『社会学年報』37, pp.15-30. 2008.
- 正村俊之 「現代社会の連続性と悲連続性——今なぜウェーバーなのか」『社会学研究』75号, pp.1-2, 2004.
- 正村俊之 「リアリティのゆくえ——バーチャル・リアリティを考える」, 『人間情報学研究』9号, pp.1-13, 2004.
- 正村俊之 「情報化と恥の変化」, 『教育と医学』3月号, pp.32-39, 2005.
- 正村俊之 「試論「情報の定義」をめぐる二人の対話」(田中一氏との共著), 『社会情報』14(2)号, pp.123-142, 2005.
- 正村俊之 「グローバル社会の編成原理」, 『社会学評論』56-2号, pp.254-272, 2005.
- 正村俊之 「第4回 シンポジウム報告『日本社会のアイデンティティ問題——再建か解放か』」『立命館産業社会論集』特別号(128号), pp.111-117, 2006年
- 正村俊之 「コミュニケーションと情報空間の相互構成——情報的世界観からみた人間と社会(上)」, 『思想』2月号, pp.36-56, 2007年
- 正村俊之 「コミュニケーションと情報空間の相互構成——情報的世界観からみた人間と社会(下)」, 『思想』3月号, pp.107-130, 2007年
- 正村俊之 「10 自己組織性——吉田民人『情報と自己組織性の理論』, 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス2 社会の構造と変動』pp.95-104, 世界思想社, 2008.
- 正村俊之 「巻頭言 現代社会論としての機能分化論」, 『社会学研究』83号, pp.1-4, 2008
- 正村俊之 「ブログ・ジャーナリズムが生み出す新民主主義」, 『月刊 公明』11月号, 2008.
- 長谷川公一 「社会調査倫理綱領をめぐる諸問題」細谷昂編『社会調査の教

- 育と実践化についての総合的研究』2002・2003年度科学研究費補助金研究  
成果報告書,岩手県立大学, pp.33-46,2004.
- 長谷川公一 「社会運動と社会運動論の現在」(共著)曾良中清司・長谷川公  
一・町村敬志・樋口直人編『社会運動という公共空間——理論と方法の  
フロンティア』,成文堂,pp.1-24,2004.
- 長谷川公一 「リスク社会という時代認識」『思想』7月号,pp.6-15,2004.
- Koichi HASEGAWA "Environmental Sociology in Japan: Problem, Topics and  
Major Characteristics", in Gyorgy Szell and Tominaga Ken'ichi eds. *The  
Environmental Challenges for Japan and Germany: Intercultural and  
Interdisciplinary Perspectives* , Frankfurt a.M. Peter Lang, pp.77-91, 2004.
- 長谷川公一 「市民社会の声 —— 環境主義・リベラリズム・保守主義」  
『NIRA 政策研究』18巻8号,pp.13-18,2005.
- 長谷川公一 「東海村住民・那珂町住民の身体的影響・原子力問題への関心  
—JCO 臨界事故・第2次住民生活影響調査の分析」JCO 臨界事故総合評  
価会議『青い光の警告 —— 原子力は変わったか』七つ森書館  
,pp.141-169,2005.
- 長谷川公一 「社会学の面白さをいかに伝えるか——『ジェンダーの社会  
学』の冒険」『社会学評論』56巻3号,pp.585-600,2005.
- 長谷川公一 「解題」淡路剛久・川本剛史・植田和弘・長谷川公一編, 2005,  
『リーディングス環境3 生活と運動』有斐閣,pp.1-11,2005.
- Koichi HASEGAWA "The Development of NGO Activities in Japan: A New  
Civic Culture and Institutionalization of Civic Action", in Robert Weller ed.  
*Civil Life, Globalization, and Political Change in Asia*, Oxford: Routledge,  
pp.110-122,2005.
- 長谷川公一 「維持可能な社会をめざすセカンド・ステージの課題 —— 環境  
社会学と環境社会学会の課題」『環境と公害』36巻2号,pp.51-56,2006.
- 長谷川公一 「社会調査と倫理 —— 日本社会学会の対応と今後の課題」『先  
端社会研究』6号,pp.189-211,2007.
- Koichi HASEGAWA " The Effects of 'Social Expectation' on the Development  
of Civil Society in Japan", with Chika Shinohara and Jeffrey Broadbent,  
*Journal of Civil Society Vol. 3, No. 2*, pp.179-203,2007.
- 長谷川公一 「『原子カルネサンス』とヨーロッパ」『科学』77巻11号

,pp.38-41,2007.

長谷川公一 「社会学批判者としての宇井純——社会学的公害研究の原点」  
『環境社会学研究』13号,pp.214-223,2007.

長谷川公一 「社会秩序と権力」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志  
『社会学』有斐閣, pp.75-102, 2007.

長谷川公一 「組織とネットワーク」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志  
『社会学』有斐閣, pp.103-136, 2007.

長谷川公一 「環境と技術」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志  
『社会学』有斐閣, pp.241-275, 2007.

長谷川公一 「社会運動と社会構想」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志  
『社会学』有斐閣, pp.511-542, 2007.

Hasegawa Koichi, “Globalization, Minorities and Civil Society,” Hasegawa Koichi and Yoshihara Naoki (eds.) ,*Globalization, Minorities and Civil Society: Perspectives From Asian and Western Cities*, Trans Pacific Press,pp.3-20,2008.

長谷川公一 「調査倫理と住民基本台帳閲覧問題」『社会と調査』創刊号,pp.23-28,2008.

長谷川公一 「自然再生プロジェクトと地域づくり——環境社会学の視点から」『環境と公害』38巻2号,pp.23-29,2008.

永井彰 「『事実性と妥当性』における民主主義的法治国家論の論理と射程」,  
『社会学研究』78号, 2005.

永井彰 「島嶼地域における高齢者ケアの諸問題—鹿児島県甬島列島の事例」  
『東北文化研究室紀要』47号, 2006.

永井彰 「高齢者の地域ケアをめぐる今日の問題状況再考」『東北大学文学研究科研究年報』56号, 2007.

永井彰 「自治体合併にともなう地域経営の変容—広島県三次市君田町の事例」  
『東北文化研究室紀要』49集, 2009.

下夷美幸 「福祉専門職」, 柄本一三郎編『新しい視点で学ぶ社会福祉』, 光生館, p.123-p.142, 2004年.

下夷美幸 「育児における男女共同参画：私的領域におけるジェンダー変革に向けた家族政策の検討」,  
『大原社会問題研究所雑誌』547号, 法政大学大原社会問題研究所, p.17-p.31, 2004年.

- 下夷美幸 「少子高齢社会と結婚，出産，子育て」，改訂・保育士養成講座編纂委員会編『家族援助論』（改訂版），全国社会福祉協議会，p.32-p.41，2005年.
- 下夷美幸 「高齢期の家族」，清水浩昭・森謙二・岩上真珠・山田昌弘編『家族革命』，弘文堂，p.207-p.213，2005年.
- 下夷美幸 「ジェンダー・エクイティー」，武川正吾・大曾根寛編『新訂 福祉政策Ⅱ 福祉国家と福祉社会のゆくえ』，放送大学教育振興会，p.181-p.200，2006年.
- 下夷美幸 「イギリス児童扶養政策の展開」，『社会志林』53巻2号，法政大学社会学部学会，p.1-p.18，2006年.
- 下夷美幸 「母子世帯政策の日本の特徴—アメリカ及びイギリスとの比較を通じて」，駒村康平編『次世代のための家族政策の確立に向けて』，社会経済生産性本部，p.117-p.143，2007年.
- 下夷美幸 「家族の社会的意義とその評価—育児・介護の担い手としての家族—」，本澤巳代子・ベルント・フォン・マイデル編『家族のための総合政策—日独国際比較の視点から—』，信山社，p.217-p.238，2007年.
- 下夷美幸 「ジェンダー・エンパワーメント」，武川正吾・三重野卓編『公共政策の社会学—社会的現実との葛藤—』，東信堂，p.213-p.240，2007年.
- 下夷美幸 「家族構造の変化とこれからの社会政策の方向」，『世界の労働』58巻1号，日本ILO協会，p.36-p.40，2008.
- 下夷美幸 「アメリカにおける養育費政策の現状とその作用」，『大原社会問題研究所雑誌』594号，法政大学大原社会問題研究所，p.19- p.35，2008.
- 下夷美幸 「家族の現代的変容と社会福祉」，『社会福祉研究』102号，鉄道弘済会社会福祉部，p.60-p.66，2008.
- 上田耕介 「ダールの経済民主制論——民主制の『第三の転換』」，『社会学研究』76号，135-160頁，2004.
- 上田耕介 「ダールの多元的民主制理論における公衆の政策理解」，『社会学研究』81号，1-22頁，2007.

## 1-2 著書・編著

- 高城和義 『福祉の人間学』（共編），勁草書，2004.
- 吉原直樹 『初期シカゴ学派の世界』（宝月誠と共編著），恒星社厚生閣，2004.

Naoki YOSHIHARA, *The Possibility of Sustainable Cities and the Problems of International and Intellectual Exchange*, (edited with I Gede Putu Wirawan), Universitas Udayana, 2004.

吉原直樹 『時間と空間で読む近代の物語——戦後社会の水脈をさぐる』, 有斐閣, 2004.

吉原直樹 『アジア・メガシティと地域コミュニティの動態—ジャカルタのRT / RW を中心にして』 (編著), 御茶の水書房, 2005.

吉原直樹 『越境する都市とガバナンス』 (共編著), 法政大学出版局, 2006.

吉原直樹 『グローバル化とアジア社会』 (共編著), 東信堂, 2006.

吉原直樹 『開いて守る: 安全・安心のコミュニティづくりのために』, 岩波ブックレット, 2007.

吉原直樹 『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容』 (編著), 御茶の水書房, 2008.

Naoki YOSHIHARA, *Globalization, Minorities and Civil Society*, (edited with Koichi Hasegawa), Trans Pacific Press, 2008.

吉原直樹 『変わるバリ, 変わらないバリ』 (倉沢愛子と共編著), 勉誠出版, 2008年.

吉原直樹 『モビリティと場所—— 21世紀都市空間の転回——』, 東京大学出版会, 2008年.

正村俊之 『シリーズ 社会情報学への接近1 パラダイムとしての社会情報学』『シリーズ 社会情報学への接近2 電子メディア文化の深層』『シリーズ 社会情報学への接近3 情報秩序の構築』『シリーズ 社会情報学への接近4 グローバル社会の情報論』 共編著, 早稲田大学出版部, 2003 ~ 2004.

正村俊之 『秘密和耻辱』 (『秘密と恥』の中国語訳), 商務印書館, 359p, 2004.

正村俊之 『社会学のエッセンス (新版)』 (共編著), 有斐閣, 2007

正村俊之 『グローバル社会と情報的世界観——現代社会の構造変容』 東京大学出版会, 2008.

長谷川公一 『環境運動と新しい公共圏——環境社会学のパーспекティブ』 有斐閣, 289p., 2003.

長谷川公一 『紛争の社会学』 放送大学教育振興会, 174p., 2004.

長谷川公一 『社会運動という公共空間——理論と方法のフロンティア』 (共

編著) 成文堂,270p.,2004.

Koichi HASEGAWA, *Constructing Civil Society in Japan: Voices of Environmental Movements*, Melbourne, Trans Pacific Press,312p.,2004.

長谷川公一 『リーディングス環境 1 自然と人間』(共編著) 有斐閣,2005.

長谷川公一 『リーディングス環境 3 生活と運動』(共編著) 有斐閣,2005.

長谷川公一 『リーディングス環境 2 権利と価値』(共編著) 有斐閣,2006.

長谷川公一 『リーディングス環境 4 法・経済・政策』(共編著) 有斐閣,2006.

長谷川公一 『リーディングス環境 5 持続可能な発展』(共編著) 有斐閣,2006.

長谷川公一 『社会学』(共著) 有斐閣,2007.

Koichi HASEGAWA, *Globalization, Minorities and Civil Society: Perspectives from Asian and Western Cities*, (共編著) Melbourne, Trans Pacific Press,244p.,2008.

下夷美幸 『養育費政策にみる国家と家族：母子世帯の社会学』, 勁草書房, 2008.

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

#### (1) 翻訳

吉原直樹監訳 Urry,J. 『社会を越える社会学』, 法政大学出版社, 2006.

長谷川公一 Catton, W.R.Jr.and Dunlap, R.E. 「環境社会学—新しいパラダイム」 淡路剛久・川本剛史・植田和弘・長谷川公一編 『リーディングス環境 1 自然と人間』 有斐閣, pp.339-346, 2005.

長谷川公一 Bullard.R.D. 「実践モデルとしての環境正義」(共訳) 淡路剛久・川本剛史・植田和弘・長谷川公一編 『リーディングス環境 2 権利と価値』 有斐閣, pp.62-74, 2006.

#### (2) 書評

吉原直樹 「成田龍一『近代都市空間の文化経験』」, 『日本史研究』 499, 2004.

吉原直樹 「自著を語る：ジョン・アーリ『場所を消費する』」, 『iichiko』 81,2004.

吉原直樹 「自編著紹介・Naoki Yoshihara and Raphaella, D.Dwianto(eds.), *Grassroots and the Neighborhood Associations*」, 『地域社会学会年報』 16, 2004.

吉原直樹 「ラディカリズムの可能性と陥穽——拙著書評をめぐって——」, 『日本都市社会学会年報』 24, 2005.

吉原直樹 「徳川直人著『G・H・ミードの社会理論』東北大学出版会」, 『宙』 20, 2007.

正村俊之 「西垣通『基礎情報学』」, 『情報学研究 学環』 68号, 2005.

正村俊之 「ルーマン『マスメディアのリアリティ』」, 『週刊読書人』, 2006.

正村俊之 「石井和平『社会情報学——情報技術と社会の共変』」, 『社会学評論』, 2009.

### (3) 解説

高城和義 「パーソンズの学問と教養教育運動」, 東北大学『曙光』, 2005.

吉原直樹 「解説」, 倉沢進編『島崎稔・美代子著作集』, 4巻(戦後日本の都市分析), 礼文出版, 2004.

吉原直樹 「イスラム化するバリ社会」, 『UP』 34-10, 2005.

吉原直樹 「いまなぜセカンドキャリア看護職の就労支援なのか」, 『看護管理』 第16号第4巻, 2006.

吉原直樹 「ボーダレス社会における安全のゆくえ」, 『交流』(中部電力) 66, 2006.

吉原直樹 「セカンドキャリア看護職に求められていることは?」, 『看護管理』 第16巻第7号, 2006.

吉原直樹 「ジャカルタを問い込む」, 『アジア遊学』 80, 2006.

吉原直樹 「都市研究におけるアジア」, 『アジア遊学』 100号記念号, 2007.

吉原直樹 「討議的民主主義とコミュニティ・ガバナンス」(巻頭エッセイ) 『ヘスティアとクリオ』 6号, 2007.

吉原直樹 「『戦後社会』と町内会」, 『「町会」「町と生活」解説・総目次・索引』, 不二出版, 2008.

正村俊之 「日本社会論」, 『AERAMOOK 新版 社会学がわかる』, 朝日新聞社, 2004.

正村俊之 「社会学——人間関係から社会関係へ」, 『AERAMOOK コ

- コミュニケーション学がわかる』, 2004.
- 正村俊之 「歴史認識の相対性」, 『理』7号, 関西学院大学出版会, 2005.
- 正村俊之 「社会運動と構成世界の接点——選択と媒介」, 『公共的良識人』2006年5月1日
- 正村俊之 「シリーズ企業との対話②: 東北放送との対話」, 『東北大学文学部ブックレット 考えるということ』No.2, 2007
- 長谷川公一 「市民科学が問いかけるもの」七つ森書館編集部編『市民科学通信一高木仁三郎著作集月報より』七つ森書館, pp.199-200, 2004.
- 長谷川公一 「リベラリズムの苦悩——アメリカ大統領選挙をふりかえる」『環境と公害』34巻3号, p.52, 2005.
- 長谷川公一 「廃炉化時代に「原子力の亡霊」が徘徊する」『技術と人間』2005年7月号(376号), pp.12-21, 2005.
- 長谷川公一 「母国語で学べる幸福」『書齋の窓』553号, pp.43-46, 2006.
- 長谷川公一 「環境社会学の国際発信に向けて——世界社会学会議と「環境と社会」研究委員会」『環境社会学研究』12号, pp.165-177, 2006.
- 長谷川公一 「制度化と自己革新」(巻頭エッセイ)『環境社会学研究』13号, p.1, 2007.
- 長谷川公一 「公害都市ダーバンで日本の環境問題を語る」, 『社会学評論』58巻3号, pp.357-361, 2007.

#### (4) 辞典項目

- 吉原直樹 「山びこ学校」「遅れた東北」「同郷会」, 『東北都市事典』, 仙台共同印刷, 2004.
- 吉原直樹 「MSA」「過剰都市化」「都市基本計画」「反都市主義」「グローバル・シティ」「政令指定都市」「経路依存性」「人種のるつぼ」『社会学小辞典 新版増補版』有斐閣, 2005.
- 正村俊之 「イデオロギー」「操作」「疎外」「大衆社会」「ベネディクト」「世論」『現代倫理学事典』弘文堂, 2006.
- 長谷川公一 「原子力船むつ」「原発銀座」『東北都市事典』, 仙台共同印刷, 2004.
- 長谷川公一 「NGO・NPO」「環境政策」「グリーン・コンシューマリズム」「資源リサイクル」「循環型社会」「地球環境問題」「緑の運動」

『社会学小辞典 新版増補版』有斐閣, 2005.

Koichi Hasegawa “Dairy Life Pollution”, “High-Speed Transportation Pollution”, ”Information and Resource Processing Paradigm”, ”Local Resident’s Movements”, ”Pollution Zones, Linear and Planar”, ”Social Structure of Victims”, ”Structural Strains, Successive Transition of” Ritzer, George ed. *Blackwell Encyclopedia of Sociology*, Blackwell, 2007.

長谷川公一 「公共圏」「公共哲学」「市民活動」「世界システム」「文化資本」など51項目『広辞苑』第6版、岩波書店、2008（そのほか社会学関連233項目を校閲長・改稿）.

下夷美幸 「福祉国家とジェンダー」「家族給付とサービス」仲村優一・一番ヶ瀬康子・右田紀久恵監修『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版, p.332 ~ p.334, p.912 ~ p.915, 2007年.

#### 1-4 口頭発表

##### (1) 国際学会

Naoki YOSHIHARA “Possibility of Sustainable Cities and the Problematic of International & Intellectual Exchange, ” (コーディネーター), 東北都市学会・ウダヤナ大学共催国際シンポジウム, ウダヤナ大学, 2004年8月2日

Koichi HASEGAWA “Modernity, Post-modernity and Constructing Civil Society in Japan,” International Workshop on Modernity, Post-modernity and Globalization in Europe and Japan, King's College, The University of Cambridge, U.K., 2004年6月11日.

Koichi HASEGAWA “The Development and Recent Trends of Environmental NGOs in Japan: Analysis from Social Movement Perspectives,” The 99th Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, USA, 2004年8月16日.

Koichi HASEGAWA “From Idealism to Profitability: The Transformation of Participatory Incentives in Green Energy Movements,” (共著) The 100th Annual Meeting of the American Sociological Association, Philadelphia, USA, 2005年8月13日.

Koichi HASEGAWA “On the limits of US Social Movement Theory for

Explaining the Japanese Case,” Special Session, The Myopia of American Sociology: Insights from East Asia, The 100th Annual Meeting of the American Sociological Association, Philadelphia, USA, 2005年8月15日.

Koichi HASEGAWA “Reframing the Wind: Locality, Idealism and Profitability as Participatory Incentives in Green Energy Movements,” (共著) The ISA XVI World Congress of Sociology, Durban, South Africa, 2006年7月25日.

Koichi HASEGAWA “The Effects of ‘Social Expectation’ on the Development of Civil Society in Japan,” The 101st Annual Meeting of the American Sociological Association, Montreal, Canada, 2006年8月12日

Koichi HASEGAWA “Collaborating Environmental Networks on Global Climate Change Issue in Japan,” The International Network for Social Network Analysis Sunbelt Conference in Corfu, Greece, 2007年5月4日.

Koichi HASEGAWA “Civil Society in Japan: Problems and Prospects,” (共著) Special Session: Is Civil Society Possible in East Asia, at the 102nd Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, USA, 2007年8月13日.

Koichi HASEGAWA “Local Environmental Governance for ‘Climate Crisis’,” 第17回アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)総会テクニカルセッションI「グローバル化と社会環境」, 名古屋大学, 名古屋市, 日本, 2007年9月29日.

Koichi HASEGAWA “Locality, Idealism and Profitability as Triggers in Green Energy Movements,” (共著) The 7th World Wind Energy Conference 2008: Energy Autonomy for Local Economies, Kingston, Canada, 2008年6月4日.

Koichi HASEGAWA “Local Movement and Local Governance for “Climate Crisis”,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, Spain, 2008年9月7日.

## (2) 国内学会

吉原直樹 「都市空間に働く〈権力作用と人間〉——大阪を〈都市周縁(インナーリング)〉から読み解く」(コメンテーター), 日本都市社会学会シンポジウム, 大阪市立大学, 2004年9月4日.

- 吉原直樹 「ジャカルタにおける地域コミュニティの布置構成と制度的再編の動向—日本のコミュニティ／町内会の動向を見据えながら」(共通論題報告), アジア政経学会全国大会, 東北大学, 2004年10月30日.
- 吉原直樹 「戦間期仙台の余暇空間」, 日本スポーツ社会学会第16大会シンポジウム, 金沢大学, 2007年3月26日.
- 吉原直樹 「ローカル・ガバナンスと『開かれた都市空間』」, 東北社会学会第54回大会シンポジウム, 東北福祉大学, 2007年7月21日.
- 吉原直樹 「安心・安全な地域づくりに向けて」(基調講演), 東北都市学会大会公開シンポジウム, 東北学院大学, 2007年9月29日.
- 吉原直樹 「ニュータウンの復権のために」(基調講演), 日本感性工学会感性哲学部会第9回研究発表会, 宮城大学, 2008年3月6日.
- 吉原直樹 「公正な社会を求めて—グローバル化する世界のなかで」(コメンテーター), 日本学術会議公開シンポジウム(日本社会学会と共催), 日本学術会議, 2008年8月.
- 正村俊之 「情報論再考」, 日本社会情報学会大会シンポジウム, 2004年10月2日.
- 正村俊之 「社会情報学的コミュニケーション論にむけて」, 日本社会情報学会(IJJSとJASI)第2回合同研究会, 2004年7月3日.
- 正村俊之 社会情報学国際シンポジウム(『情報と都市』)の企画・司会, 2005年9月13日.
- 正村俊之 東北社会学会大会 自由報告部会の司会
- 正村俊之 「内部化する知性と外部化される知性」, 第1回横幹連合総合シンポジウム, 2006年12月2日.
- 正村俊之 日本社会情報学会大会 基礎理論部会②のコメンテーター, 2007年9月9日.
- 正村俊之 東北社会研究会大会 シンポジウム『ルーマン理論の到達点』の企画・司会, 2007年10月6日.
- 正村俊之 東北社会学大会シンポジウム(『学説研究と数理・計量社会学—理論との対話を考える』)のコメンテーター, 2008年7月19日.
- 正村俊之 「リスク論と社会情報学の接点」, 日本社会情報学会大会シンポジウム, 2008年9月13日.
- 正村俊之 日本社会情報学会 理論部会のコメンテーター, 2008年9月14日.

- 日.
- 長谷川公一 「リベラリズムの危機と〈公共社会学〉の可能性」単独, シンポジウム, 第78回日本社会学会大会シンポジウム,法政大学,2005年10月15日.
- 長谷川公一 「調査倫理をどう考えるか」単独, シンポジウム, 関西学院大学21世紀COE研究会「調査倫理研究会」,関西学院大学,2005年12月9日.
- 長谷川公一 「市民協働か? 都市成長か? 地域政治の新しい対立軸」単独, 第54回東北社会学会大会,東北福祉大学,2007年7月22日.
- 長谷川公一 「地域ガバナンスの動態分析-仙台市議会議員選挙における立候補予定者の事前意向調査とその選挙結果および当選後の活動をめぐって」単独, 2007年度日本政治学会研究会,明治学院大学,2007年10月8日.
- 長谷川公一 「地方議会の対立軸————市民協働と都市成長」単独, 第80回日本社会学会大会,関東学院大学,2007年11月18日.
- 長谷川公一 「リスク社会化と市民社会」単独, シンポジウム, 東北社会学研究会, 2008年度研究会大会シンポジウム「リスク社会と連帯」,東北大学, 2008年5月17日.
- 永井彰 「『事実生と妥当性』における批判的社会理論の論理構造」, 社会思想史学会第29回大会セッション, 早稲田大学, 2004年10月10日.
- 永井彰 東北社会学研究会大会シンポジウム(「批判的社会理論の今日的状況」)の企画・司会, 東北大学, 2004年10月30日.
- 下夷美幸 福祉社会学会 第5回大会パネルディスカッション, 「市民社会の構築に向けてのNPO研究の可能性と課題」討論者, 東京学芸大学, 2007年6月23日.
- 下夷美幸 「福祉国家と家族—アメリカの母子世帯政策を素材として」(基調講演), 日本ジェンダー学会・Association for Gender Issues in Academia 共催コロキウム, 東北大学, 2007年12月22日
- 下夷美幸 「現代家族の課題と可能性」, 東北社会学研究会大会シンポジウム(リスク社会と連帯), 東北大学, 2008年5月17日
- 下夷美幸 比較家族史学会研究大会第50回記念大会シンポジウム, 「格差社会と家族」討論者, 東北大学, 2008年6月22日
- 下夷美幸 第4回社会保障・社会福祉国際学術会議特別セッション(第20

回福祉社会学会研究会シンポジウム),「グローバル化と『いのちと暮らし』の再生産保障のゆくえ—国家・家族・個人をめぐる新たなフレームを読み解く—」討論者,日本福祉大学,2008年9月13日

下夷美幸 「家族支援政策の規範論と制度論—介護保険制度を素材として—」,第28回日本家政学会家族関係学セミナー・シンポジウム,大妻女子大学,2008年10月11日

上田耕介 「民主制と時間の制約——ダール理論の特質」,東北社会学会第51回大会,2004年7月31日.

上田耕介 「いわゆる自由と平等の相克について——ダールによる民主制擁護論より」,東北社会学会第52回大会,2005年7月30日.

上田耕介 「ダールの『ミニポピュラス論』」,東北社会学会第53回大会,2006年7月29日.

上田耕介 「政治的平等、経済格差、テロリズム——ロバート・ダールの2つのシナリオ」,東北社会学会第54回大会,2007年7月22日.

### (3) 研究会

高城和義 「パーソンズの社会成層論」,東北社会学研究会,2005年6月

吉原直樹 「「公共世界としての都市」の定式化に向けて」,第67回公共哲学京都フォーラム・シンポジウム,公共哲学京都フォーラム in 東北大学会議「社会運動と公共世界—公共哲学と公共社会学の接点を求めて」,2006年3月17日.

正村俊之 「グローバル社会における公共世界——公共圏は成立可能か」,第67回公共哲学京都フォーラム・シンポジウム,公共哲学京都フォーラム in 東北大学会議「社会運動と公共世界—公共哲学と公共社会学の接点を求めて」,2006年3月17日.

正村俊之 「コミュニケーション理論の新展開」,社会情報学基礎論研究会,2008年4月12日

正村俊之 東北社会学研究会例会のコメンテーター,2008年

長谷川公一 「公共社会学の提唱とその背景」第67回公共哲学京都フォーラム・シンポジウム,公共哲学京都フォーラム in 東北大学会議「社会運動と公共世界—公共哲学と公共社会学の接点を求めて」2006年3月16日.

下夷美幸 「離婚後の子どもの養育費」,「民法と社会保障法の比較法的研

究」研究会，筑波大学，2006年6月16日。

下夷美幸 「ケアワークの担い手としての家族—その意義と認知のあり方—」，日本におけるドイツ年2005/2006記念国際シンポジウム「少子高齢社会と家族のための総合政策」専門家会議，筑波大学，2006年3月10日。

下夷美幸 「母子世帯政策の日本の特徴—アメリカ及びイギリスとの比較と通じて」，東北社会学会2007年度第1回研究例会，東北大学，2007年6月1日。

下夷美幸 「アメリカにおける家族の変容と家族政策—母子世帯の子どもの扶養をめぐって—」，大原社会問題研究所「福祉国家と家族政策」研究会，法政大学，2007年10月29日。

#### **(4) 海外招待講演**

Koichi HASEGAWA "Environmental Sociology in Japan: History, It's Results and the Next Targets", Environmental Policy Group Colloquium Series, Wageningen University, The Netherlands, 2004年7月7日。

Koichi HASEGAWA "Constructing Civil Society in Japan: Voices of Environmental Movements", SociETAS Series, The University of Wisconsin, Madison, USA, 2004年10月15日。

Koichi HASEGAWA "A Lost Decade or an Achieved Decade? : Civil Society in Japan after the 90s", Sociology Workshop Series of the University of Minnesota, Minneapolis, USA, 2004年10月26日。

Koichi HASEGAWA "Between Civil Society and Sustainable Society: Environmental NGOs and Policy Responsiveness in Japan", Fall 2004 Seminars of Program on U.S.-Japan Relations, Harvard University, Cambridge, USA, 2004年11月16日。

Koichi HASEGAWA "Environmental Sociology in Japan: The Turning Point for the Second Stage", Noon Lecture Series of the Center for Japanese Studies, The University of Michigan, Ann Arbor, USA, 2004年11月18日。

Koichi HASEGAWA "Disputes on Strategy to Promote Renewable Energy", IREE's (Initiative for Renewable Energy and Environment) Fall Workshop Series, The University of Minnesota, Minneapolis, USA, 2004年12月1日。

Koichi HASEGAWA "Locality, Idealism, Profitability and 'Collaborative

Environmentalism' as Triggers in Green Energy Movements" Abe Fellow's Retreat, Cocoa Beach, Florida, USA, 2007年1月13日.

Koichi HASEGAWA "The Development of Japanese Environmental Sociology: Issues and Major Focus of Two Stages" Beijing International Conference of Environmental Sociology, The Renmin University of China, Beijing, China, 2007年7月1日.

Koichi HASEGAWA "The Development of Civil Society in Japan: Under the Age of Globalization and Post-modernity" International Conference on "Globalization and Multi-Modernity", Jilin University, Changchun, China, 2007年9月1日.

Koichi HASEGAWA "Local Governance and Collaborative Process for "Climate Crisis" The 6th East Asian Sociologist Conference: Social Transformation in East Asia, Seoul National University, Seoul, Korea, 2008年10月11日.

## **2 教員の受賞歴（2004年度～2008年度）**

吉原直樹 日本都市学会長特別表彰, 2005年.

長谷川公一 第2回日本NPO学会研究奨励賞, 日本NPO学会より受賞,  
2004年3月

長谷川公一 第25回阿部次郎文化賞, 酒田市教育委員会より受賞, 2008年  
10月

## **IV 教員による競争的資金獲得（2004年度～2008年度）**

### **（1）科学研究費補助金**

（2002-2004年度）課題番号14510191, アメリカ社会学における逸脱理論の発展過程の研究, 研究分担者: 吉原直樹, 3,000,000円（3年間総額）

（2002-2004年度）課題番号14402018, 市場経済形成期におけるコミュニティ組織の存在形態-日本・英国・インドネシアの比較社会史的研究, 研究分担者: 吉原直樹, 13,000,000円（3年間総額）

（2002-2004年度）課題番号14380023, 地方中枢都市の発展性を規定するローカリティに関する比較研究, 研究分担者: 吉原直樹, 6,600,000円（3年間総額）

（2002-2005年度）課題番号14310079, 現代社会におけるシカゴ学派社会学

- の応用可能性, 研究分担者: 吉原直樹, 11,500,000 円 (3 年間総額)
- (2003 年度) 課題番号 15633006, “人間性の本質” 観と社会的ポリシーの決定——人文・社会科学からの総合的検討, 研究分担者: 吉原直樹  
2,900,000 円.
- (2003 年度) 課題番号 15633003, 中国返還後のマカオの地域住民組織の存在形態とコミュニティの変容に関する予備調査, 研究代表者: 吉原直樹,  
2,100,000 円.
- (2003-2005 年度) 課題番号 15530354, 臨床社会学の理論及び調査方法論の展開——シカゴ学派のパースペクティブから, 研究分担者: 吉原直樹,  
2,800,000 円 (3 年間総額)
- (2003-2006 年度) 課題番号 15402033, インドネシア・バリ島における都市化の進展とコミュニティの動態に関する経験的研究, 研究代表者: 吉原直樹,  
13,200,000 円 (4 年間総額)
- (2004-2007 年度) 課題番号 16203029, 「ポスト占領体制」期地域住民組織の比較・歴史社会学的研究, 研究代表者: 吉原直樹, 34,020,000
- (2004-2007 年度) 課題番号 16330092, 地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究, 研究代表者; 永井彰, 10,200,000 円 (4 年間総額)
- (2007—2008 年度) 課題番号 19402033, 基盤研究(B),持続可能な都市形成に与えるソーシャル・キャピタルの効果の国際比較,研究代表者: 長谷川公一  
14,220,000 円 (2 年間総額)
- (2007-2009 年度) 課題番号 19300084, ユビキタス社会の社会情報学基礎論, 研究代表者: 正村俊之, 6,064,000 円 (3 年間総額)
- (2007—2009 年度) 課題番号 19330102, 基盤研究(B),地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション,研究代表者: 長谷川公一 17,090,000 円 (3 年間総額)

## (2) その他

- (2001—2004 年度) トヨタ財団研究助成「市民社会の時代の科学・技術」, 研究分担者: 長谷川公一「JCO 臨界事故の原因と影響に関する再検討と政策提言——「市民の科学」の学際的实践と展開」
- (2003 年度—2007 年度) 21 世紀 COE プログラム研究拠点形成費補助金 社

会階層と不平等研究教育拠点の形成 事業推進担当者：吉原直樹、長谷川公一

(2004 年度) 国際交流基金日米センター・米国社会科学研究評議会, 安倍フェローシッププログラム 研究代表者：長谷川公一「グリーン電力をめぐる政治と市民社会」36,929US ドル。

(2006 年度) 日本学術振興会受託研究「社会学分野に関する学術動向の調査研究」250 万円

(2006-2007 年度) 社会安全研究財団研究助成, 研究代表者：吉原直樹「安全・安心なまちづくりにおける地域コミュニティの役割に関する研究」250 万円

(2006-7 年度) 大原社会問題研究所共同研究助成金「福祉国家と家族政策—ケア供給レジュームの比較研究」研究分担者：下夷美幸

(2007 年度) 日本学術振興会受託研究「社会学分野に関する学術動向の調査研究」250 万円

## V 教員による社会貢献 (2004年度～2008年度)

吉原直樹 教授

- ・日本学術会議連携会員 (平成 16 年度～現在)
- ・日本学術振興会科研費審査部会専門委員 (2003 ～ 2004 年度)
- ・日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会審査員 (2005 年 8 月～ 2007 年 7 月)
- ・河北新報・東北大学 100 周年記念事業・東北みらいプロジェクト「不安社会」企画立案・コーディネーター (2008 年 1 月～ 2008 年 7 月)
- ・仙台市廃棄物対策審議会委員 (2001 ～ 2004 年度)
- ・仙台市社会教育会委員長 (1996 年 11 月～ 2005 年 10 月)
- ・仙台市安全なまちづくり市民懇談会座長代理 (2004 年 4 月～ 2005 年 3 月)
- ・仙台市指定管理者選定委員会委員 (2004 年 9 月～ 2006 年 3 月)
- ・仙台市泉岳少年自然の家改築基本構想・計画委員会委員長 (2002 ～ 2003 年度)
- ・仙台市コミュニティビジョン検討委員会委員長 (2006 年 7 月～ 2008 年

1月)

- ・仙台都市総合研究機構都市コミュニティ研究会座長（2003～2004年度）
- ・日本新聞協会賞推薦委員（2000年度～現在）
- ・特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター評議員（2000年～現在）

正村俊之 教授

- ・仙台市情報化推進会議委員,2007年度～
- ・関西学院大学出版会評議委員,2004年度～
- ・出張講義「コミュニケーションからみた人間関係」,秋田県立大館鳳鳴高校,2004年2月18日
- ・講演「高度情報化社会の諸課題」(第176回行政研究(課長級)カリキュラム)人事院,2004年9月16日
- ・天皇・皇后両陛下お招きの御夕餐会,2008年2月18日

長谷川公一 教授

- ・日本学術会議連携会員（2006年度—）
- ・日本学術振興会専門研究員（2006年度—）
- ・『環境と公害』編集同人（1998年-）
- ・宮城県自然エネルギー・省エネルギー促進審議会委員（2002年度—）
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進センターセンター長（2003年度—）
- ・都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会代表幹事（2006年7月—）
- ・エコ de スマイルコンテスト in みやぎ選考委員長（2007年5月—）
- ・仙台市市民公益活動促進委員会委員（2001年—）
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員（2007年度—）
- ・社会調査士資格認定機構評議員（2003年度—06年度）
- ・社会調査士資格認定機構理事（2007年度—）
- ・財団法人せんだい男女共同参画財団理事（2001年度—）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事（2000年度-）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長（2007年7月-）

- ・特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター監事（1997 年-）
- ・東日本放送番組審議会委員長（2001—2003 年）

永井彰 准教授

- ・宮城県社会福祉審議会委員、2003 年 4 月～現在。
- ・宮城県社会福祉審議会老人福祉分科会会長、2004 年 12 月～2006 年 3 月。
- ・大崎市地域福祉計画策定会議会長（2007 年 8 月～2008 年 3 月）
- ・講演「地域福祉を考えよう！ in NAGANO」ボランティア交流センターながの第 1 回カフェ・コラボ、2007 年 5 月 20 日。
- ・講演「大崎市地域福祉計画づくりに向けて」大崎市役所、2007 年 8 月 20 日。

下夷美幸 准教授

- ・講演「“家族”のつくられ方—日本型家族政策—」，西宮市男女共同参画センター連続講座「“正しい家族”のつくり方」，西宮市男女共同参画センター・ウェブ，2004 年 2 月 2 日
- ・財団法人・社会経済生産性本部「次世代育成支援研究」専門委員会委員（2005—2006 年）
- ・財団法人・社会経済生産性本部「ワーク・ライフ・バランスの推進等のあり方に関する総合的な調査研究」専門委員会委員（2006 年）

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004年度～2008年度）

吉原直樹 教授

- ・日本都市学会理事（2005 年度～現在）
- ・地域社会学会理事（2004 年 5 月～2008 年 4 月）
- ・地域学会賞選考委員会委員（2007 年度～現在）
- ・日本都市社会学会理事（2007 年度～現在）
- ・コミュニティ政策学会理事（2004 年 7 月～現在）
- ・東北都市学会会長（2000～2004 年度）
- ・東北社会学会会長（2007 年 5 月～現在）
- ・日本社会学会奨励賞推薦委員（2007 年度～現在）

正村俊之 教授

- ・日本社会学会『社会学評論』編集委員,2004～2006年度
- ・科研費審査部会・人文社会系委員(特別推進研究・特定領域研究),2003～2004年度
- ・科研費審査部会・がん・ゲノム・脳領域審査委員会委員,2004年度
- ・科研費審査部会・研究成果公開発表委員会委員,2004年度
- ・学術創成研究費・平成17年度新規研究課題推薦者,2004年度
- ・日本社会情報学会合同大会実行副委員長,2005年度
- ・日本社会情報学会奨励賞選考委員会委員長,2006年度～2007年度
- ・日本社会学会奨励賞推薦委員,2005～2006年度
- ・日本社会情報学会理事,2003～2007年度
- ・日本社会情報学会英文編集委員,2008年度～

長谷川公一 教授

- ・日本社会学会庶務理事 2003年10月から2006年10月まで.
- ・日本社会学会世界社会学会議招致部会事務局長 2007年1月から2008年5月に至る.
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会副委員長 2008年7月から現在に至る.
- ・環境社会学会運営委員 1999年6月から2003年6月まで. 2005年6月から現在に至る.
- ・環境社会学会会長 2007年6月から現在に至る.
- ・東北社会学会理事 2003年7月から2007年7月まで.
- ・環境経済・政策学会理事 1995年から現在に至る.
- ・日本環境会議理事 1998年から現在に至る.
- ・*Mobilization: The International Journal of Research and Theory about Social Movement, Protest, and Collective Behavior*, Associate Editors, 1999年1月から現在に至る.

永井彰 准教授

- ・福祉社会学会理事 (2005～2006年度)

- ・東北社会学研究会庶務委員（2002年度～）
- ・東北社会学会理事（2007～2008年度）

下夷美幸 准教授

- ・日本家族社会学会・編集委員（2002-2004年度）
- ・福祉社会学会・理事（2003-2004年度）
- ・日本社会学会・編集委員会専門委員（2005-2006年度）
- ・家族問題研究会・専門委員（2006年度-現在）
- ・福祉社会学会・理事（2007年度-現在）
- ・東北社会学研究会・編集委員（2007年度-現在）

上田耕介 助教

- ・東北社会学研究会編集委員 2000年10月から2003年11月まで、2005年6月から現在に至る。
- ・東北社会学研究会庶務委員 2005年6月から現在に至る。
- ・東北社会学会年報編集委員 2003年7月から2005年7月まで。
- ・東北社会学会理事・庶務委員 2005年7月から2007年7月まで。

## Ⅶ 教員の教育活動（2008年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

吉原直樹教授

地域社会学研究演習Ⅰ～Ⅳ

正村俊之教授

社会的コミュニケーション論特論

社会的コミュニケーション論研究演習Ⅰ～Ⅳ

長谷川公一教授

社会変動学特論

社会変動学研究演習Ⅲ～Ⅳ

下夷美幸准教授

社会変動学特論

社会変動学研究演習 I ～ II

社会学調査実習 I ～ II

## 2 学部授業担当

吉原直樹教授

社会学基礎演習

社会学演習

正村俊之教授

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

長谷川公一教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学演習

下夷美幸准教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学各論

社会学実習

## 3 共通科目・全学科目授業担当

吉原直樹教授

社会学

正村俊之教授

社会学

### (2) 他大学への出講 (2004～2008年度)

吉原直樹 教授

横浜市立大学 (2001 年度～現在)

山形大学 (2004 年度)

新潟大学 (2004 年度)

正村俊之 教授

山形大学人文学部,2005 年度

九州大学, 2006 年度

東北学院大学, 2008 年度

長谷川公一 教授

岩手県立大学大学院総合政策学研究科 (2005 ~ 2007 年度)

放送大学 (2003 ~ 2007 年度)

米国ミネソタ大学社会学部 (2004 年度)

永井彰 准教授

(2001 年度以降はなし)

下夷美幸 准教授

お茶の水女子大学 生活科学部 (2004 年度, 2006 年度)

立教大学 社会学部 (2004 年度)

法政大学 社会学部 (2007 年度)

上田耕介 助教

尚絅学院大学, 2003 年度から 2007 年度

石巻専修大学, 2003 年度から 2005 年度

山形大学, 2006 年度

東北薬科大学, 2007 年度